

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	園芸生産環境実験実習Ⅱ							授業形態	実習	
科目コード	260006	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	前田 隆昭、廣瀬 大介、長江 嗣朗、山口 健一、陳 蘭庄								ICT活 用	
授業概要	本実験実習は、園芸生産環境実験実習Ⅰを踏まえた上で、花卉、蔬菜、果樹、作物および環境保全の各分野、それぞれの専門的な実験・実習を行います。【知識・技能の育成】 なお、受講者はローテーションにより教員が担当する5分野全ての実験・実習を行う。									
関連する科目	受講にあたっては、園芸生産環境実験実習Ⅰを受講していることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	実験・実習前に各回の内容について説明を行った上で実施する。【知識・技能の育成】随時、プリントなども配布する。									
授業計画 【第1回】	以下の項目について、2コマ×15回の実験・実習をフィールド教育センター、実験室および学外フィールドを中心に行う（順不同）。 作物の栽培技術1. ソバの花の観察（廣瀬大介） ソバの花の形態的特性を学習する。									
授業計画 【第2回】	作物の栽培技術2. 作物の収穫・調整（廣瀬大介） 作物の収穫と調整方法について学習する。									
授業計画 【第3回】	作物の栽培技術3. 麦類の播種（廣瀬大介） 麦類の播種方法について学習する。									
授業計画 【第4回】	野菜の栽培技術1. （陳 蘭庄） 果菜類の栽培・収穫・種取プロセスの実践について学習する。									
授業計画 【第5回】	野菜の栽培技術2. （陳 蘭庄） 根・葉菜類の栽培・収穫・貯蔵プロセスの実践について学習する。									
授業計画 【第6回】	野菜の栽培技術3. （陳 蘭庄） DNAレベルでの野菜品種判別プロセスの実践について学習する。									
授業計画 【第7回】	環境保全園芸技術1. （山口健一） 未利用生物資源（甘藷茎葉）の促成堆肥化について学習する。									
授業計画 【第8回】	環境保全園芸技術2. （山口健一） 緑肥を利用した冬季圃場管理について学習する。									
授業計画 【第9回】	環境保全園芸技術3. （山口健一） 西南暖地の雑草種とIWM（総合雑草管理）について学習する。									
授業計画 【第10回】	花卉の栽培技術1. 切り花栽培（長江嗣朗） 秋季から冬季にかけて生産ができるストックを用いて切り花生産を学習する。									

授業計画 【第11回】	花卉の栽培技術 2. 観葉植物の栽培（長江嗣朗） 比較的温暖な温室を用いて観葉植物の栽培を行い、一般的な花苗との維持管理の違いを学習する。
授業計画 【第12回】	花卉の栽培技術 3. 球根栽培とその生産（長江嗣朗） いくつかの種類の球根の繁殖から行い、開花さらには新しい球根の生産を学習する。
授業計画 【第13回】	果樹の栽培技術 1. （前田隆昭） 落葉果樹の整枝せん定について学習する。
授業計画 【第14回】	果樹の栽培技術 2. （前田隆昭） 常緑果樹の整枝せん定について学習する。
授業計画 【第15回】	果樹の栽培技術 3. （前田隆昭） 果樹類の冬場のハウス管理について学習する。
授業の到達目標	園芸植物（蔬菜、果樹、花卉）及び主要作物の生産において、環境に配慮した栽培法を学び、高品質で安心・安全な植物生産が実践できる技術を習得する。【知識・技能の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	第1回目に実験・実習内容を示すので、各自でその内容について予め予習を行うこと。（1時間程度）
授業時間外学習【復習】	授業ではレポートの提出を課すので、受講者各自で毎回復習してレポートを完成させること。（1時間程度） なお、授業の中で不明な箇所については、随時担当教員に質問し、学びを深めること。
課題に対する フィードバック	提出したレポートについては、担当教員から解説を行う。
評価方法・基準	各回毎にレポート及び実習態度・技術習熟度等で採点し、全授業を通して100点満点で評価する。
テキスト	関連する参考書・資料を適宜紹介する。
参考書	授業（実験項目）内容に関する資料を随時配布する。
備考	